

# 海底環境への影響を緩和した底曳網

漁業生産・情報工学部  
(協力:宮城県仙台地方振興事務所)

## 研究の背景・目的

1. 底曳網が海底環境やそこに生息する生物に与える影響が懸念されている。
2. 海底への接触面積や接触圧を削減した漁具の導入に向けた試験を行う。

## 研究成果

1. 海底環境への影響緩和を目的とし、かつ着底種の漁獲減少分を離底種の漁獲で補う底曳網を曳網した。
2. 網口高さが従来網の倍以上になり、スズキやジンドウイカといった離底種が漁獲された。
3. ヒトデやカイメンといった底生生物の入網量が少ない傾向にあった。
4. 使用時期や網目の大きさを調整することで、実用化の可能性はある。

## 波及効果

1. 海底環境に与える影響を緩和した漁具が導入される。
2. 資源状態に合わせて漁獲対象種を選択することで、漁家収入が安定する。



海底への影響緩和を目的とした底曳網の操業風景(左)  
スズキなどが漁獲され、従来網に比べて底生生物の入網が少なかった(右)

(漁具・漁法グループ:藤田薫・長谷川誠三・山崎慎太郎、機械・機関研究チーム:溝口弘泰)